平　標　山　山　行　記　録

最後の登り

谷川連峰を見る

山頂は真冬

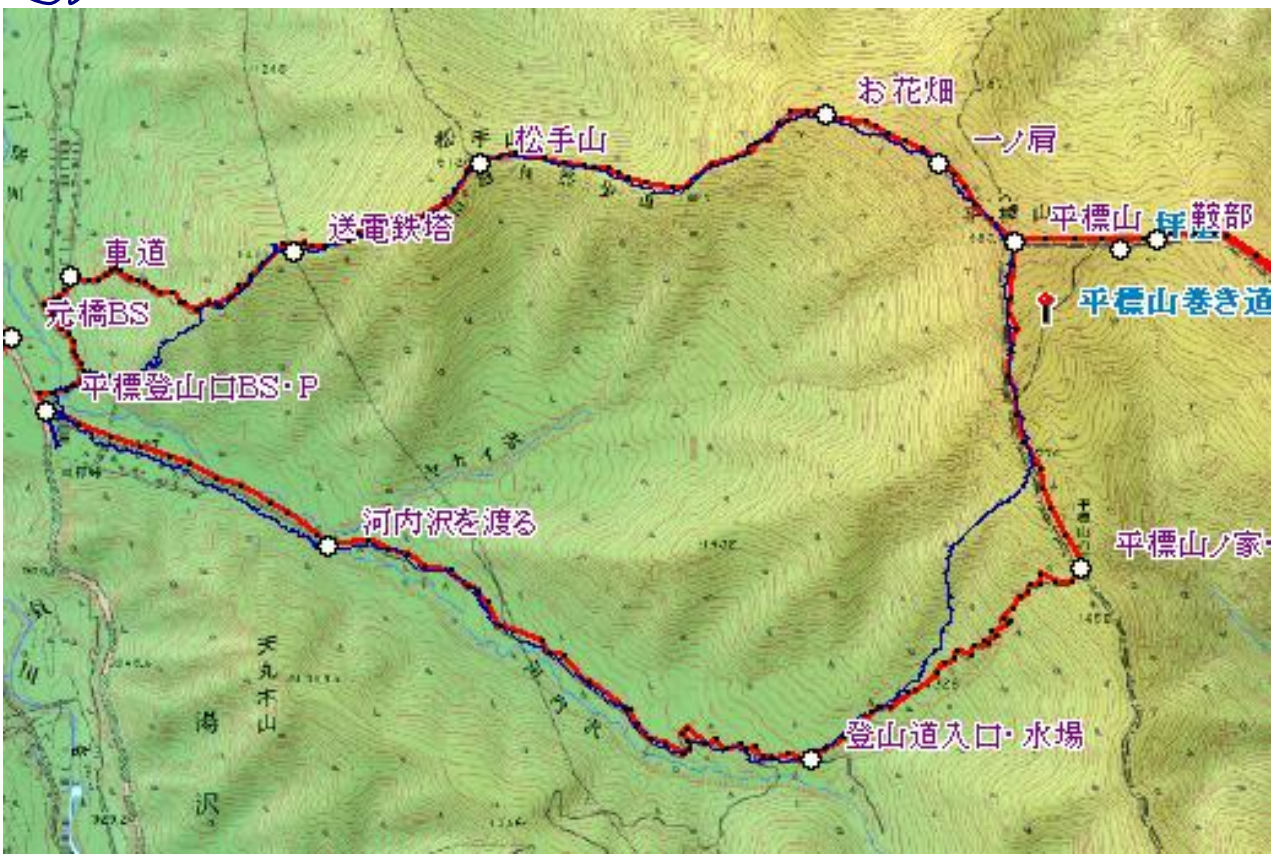
目的地	平標山	期　日	平成２２年４月２５日（日）・終日快晴
山行人	笠原正雄・伴場ちづ子	特　記	平元新道から主稜へ、松手山経由下山

地　点　名	時　刻	記　　事
二居大沢山荘	午前 7 時頃	B が先週三俣で置き忘れたピッケルを昨日取戻しに来て、泊まっていた。入室し弁当朝食後、出発準備する。
駐　車　地　点	7:50 発	三国小学校脇、雪覆洞入口前に来る。山スキーヤーがシールを貼っていた。平本林道で若者夫婦を追い越す。彼らはピッケルを持っていないようだった。たぶん上までは上がれなかったのでは無いだろうか。出だしは雪と地面と交互だ。
林道 U ターン蛇行	8:45	右手に堰を見て、林道が旋回する。既に雪上歩きとなる。
登　山　口	9:00	入口附近のみ地面が出ていた。山の家まで 60 分、更に山頂まで 50 分とある。
急登のヤブ	9:40～9:50	急登を登っている。ヤブ手前のテラスで山スキー男２人が休んでいて出発するところだった。そこで休む。ここからピッケルでヤブを掻きながら上る。
傾斜が緩む	10:20	途中で前行２人を追い越す。ピッケルからダブルストックに戻る。
主稜に上る	10:30	松の木が現れ、主稜に上る。３人が休んでいた。小屋の少し上部だが、手前の小ピークで小屋は見えない。山頂に向かい、ふり返ると小屋が見えた。
シュカブラが溶け始める	10:35	右手の仙ノ倉の山頂は白いが山腹のブッシュが出始めている。足元のシュカブラが溶け始めて輝いている。カサコソと踏んで進む。樹氷がだんだん厚くなってくる。一部木階段が露出している。１人が山頂からスキーで降りて来た。
平　標　山　頂	11:10	手前から夏道が出ていた。しかし気温は低く、山頂看板は雪氷の固まりがついていて字が読めない。数人隊が下山準備中。我々のルート上にはそれ程踏み跡は多くなかったのでヤカイ沢を上がったようだ。松手山からの夫婦等も来たが、平元新道側からの方が多い。仙ノ倉への木階段に座りランチ。すぐ上段にも夫婦が座っていた。右下の斜面で３人がロープを使ってなにやら訓練をしていた。
松手山経由で下山	12:00 発	ランチの間には先の山スキー２人は山頂に到着しなかった。途中から滑り降りたのかも知れない。B はアイゼンを履いたが、俺はピッケルのみで出発する。すぐに先行下山の夫婦を追い越す。北斜面で雪が吹き溜まりとなっている所がある。間も無く、地面が出てくるようになり B はアイゼンを脱ぐ。
木階段が出ている	12:25	殆どが露出していた。階段脇の雪に上らずとも下れる。階段を終わった所で単独上山者とスライド。この付近まで潅木に樹氷が見られ、低気温をうかがわせる。
標高点　１６７７	12:45	坂は地面が出ているが、平坦路となると雪上歩きとなる。左の斜面で数人がピッケル歩行の練習をしていた。先端が落ちきった雪庇上を進む。
松手山通過	12:55 ころ	標柱が雪の下になっていたと思われる。気付かずに通過してしまう。
巨大鉄塔下	1:15	ヤッケ脱ぐ。鉄塔直後、盛り上がった雪上歩きで左下の夏道を見失いヤブに入り込んでしまった。元に戻り夏道に降りる。
標高点　１４１１	1:45	殆ど雪がなくなる。苗場スキー場はリフトが動いていない。
登山口標柱前	2:00 着	大沢山荘に戻り、帰りを待っていた B の伯母さんと B と別れ帰宅。４時半から東山市民ハイキングに参加した N と S 夫妻とでみよしので一杯。

今年は何時までも寒く、天候が優れない日が続いた。従ってこの山に向かうのが一ヶ月以上遅い。従って雪も薄くなりヤブが出始め、登りに少し手を焼く場面もあった。前々日あたりから寒気が入り気温は季節以上に低かった。しかし、終日雲ひとつ無い快晴で、申し分ない景色を楽しんで来た。

先週の B の置き忘れは、フキノトウの採り始めにザックからすり落ちたようで、林道上にあったとのことだ。同日、スパッツも自宅から持ってくるのも忘れたこともあり、それが懲りたのだろう、今回はしきりに忘れ物はないかと頻繁にチェックしていた。俺にしても出発してから忘れ物に気付き、一度自宅に取りに戻ることがままある。要注意だ。

が今回トラック


お花畑
一ノ肩
松手山
平標山
鞍部
送電鉄塔
車道
元橋BS
平標登山口BS・P
河内沢を渡る
平標山ノ家
登山道入口・水場